

第3号様式（第4条第1項）

平成30年3月30日

君津市議会議長 鈴木良次様

公共施設等調査特別委員会

委員長 榎本貞夫

行政視察結果報告書

君津市議会行政視察取扱要綱第4条第1項の規定により、次のとおり報告書を提出します。

記

- 1 期 日 平成30年1月29日（月）から
平成30年1月30日（火）まで
- 2 視 察 先 静岡県島田市・神奈川県箱根町
- 3 調査事項
（1）公共施設マネジメントの取り組みについて（島田市）
（2）旧仙石原中学校の跡地活用について（箱根町）
- 4 参加議員 榎本 貞夫、橋本 礼子、下田 剣吾、
佐藤 葉子、石上 墨、平田 悦子、
保坂 好一、三浦 章
- 5 経 費 別紙のとおり

公共施設等調査特別委員会 行政視察経費

- ① 宿泊日当 166,400円 (14,800円×1泊+3,000円×2日) ×8人
- ② 中型バス (貸切) 201,030円
- ③ 有料道路代 19,760円
- ④ 視察先手土産代 5,961円
- ⑤ 車賃 3,660円
- ⑥ キャンセル料 11,070円

合 計 407,881円

静岡県島田市

日 時：平成30年1月29日（月）午後1時30分から午後3時30分

場 所：島田市役所

出席者：福田議長、議会事務局 根岸主査

財政課 鈴木課長、岩本係長

社会教育課 南條課長、宮脇主査

1 島田市の概要について ※（ ）内は君津市

人 口：9万9千人（8万5千人）

面 積：315.70km²（318.81km²）

一般会計：366.1億円（294.1億円） 議 員 数：20名（24名）

島田市は、静岡県のほぼ中央に位置しており、北には南アルプスへ続く山々が連なり、南西には緑豊かな牧之原台地が広がっている。また、南アルプスに源を発し、駿河湾にそそぐ大井川が市内を流れている。

2 調査事項について

【公共施設マネジメントの取り組みについて】

島田市では、高度成長期に整備された公共施設が一斉に老朽化を迎え、今後、財政負担が増大し、限界を超える事が懸念されるため、中長期計画の策定と公共施設マネジメントの取り組みを推進している。公共施設の管理については、品質・保有量・管理費の適正化を最重要課題として、更新・統合・廃止等の具体的方針を策定し、公共施設保有量の削減目安を21%とした。市民への対応はワークショップ・市民フォーラム・市民アンケート・公共施設マネジメントサロンなどを開催し合意形成を図るとのことだった。

市民との合意形成について、ワークショップやマネジメントサロンなどにおいて提案を受けたものがそのまま計画に反映されると思われることもあるが、意見の大半は予算の制約や法規制といった事項が意識されておらず、実現困難なものも含まれていた。このことから、改めてサロンを開催し意見の実現に向けて制約的な条件の下でどのような方法が考えられるか、市民との対話を重ね、身の丈に合った方法で実現に向けていきたいとの説明があった。

これらの事業の基本にあるものは、染谷市長によるものが大きいと思われる。ファシリテーションのスキルを取り入れ、多くの市民に研修を呼びかけ人づくりのインフラ整備に取り組んでいた。受講生は100人にも及び市民が行政と協働して取り組むスキルを身につけており、合意形成をイメージしながら協働のまちづくりを進めている。

また、社会教育施設は、地域の拠点として活用するために、地域交流センターとして地域の方々に任せる方法をとっていた。地域の中で議論し、地域住民が1人1万円ずつ出資し企業組合を立ち上げ、そこには配当がある事で、生きがいくつやり張り合いとなり、地域の核となっている。しかし、実際は配当できていないとのことであった。

平成19年3月で廃校になった旧笹間小学校は、地域住民が主体となって廃校施設活用の方法を検討し、平成21年4月から宿泊施設「山村都市交流センターささま」として活用されている。地域の豊かな自然を生かした、さまざまな生活体験学習やスポーツ・文化などの活動の場として、多くの人々が訪れ、地域活性化に貢献している。山村都市交流センターささまでは、市として約2,000万円（うち1,400万円が指定管理料）の支出があるが、指定管理者の収入として、施設利用料や自主事業によるものなど約500万円の収入がある。

3 所感

中山間地域活性化推進施策との関わりは難しいと話されていたが、ワークショップ等を通じ地元住民と丁寧に合意形成を図ることが肝要である。地域の中で地域の事を地域の人考える重要性を改めて感じ、島田市の手法を本市の公共施設管理に取り込んでいきたいと思った。



神奈川県箱根町

日 時：平成30年1月30日（火）午前10時00分から12時00分

場 所：星槎箱根仙石原総合型スポーツクラブ

出席者：沖津議長、議会事務局 八木局長、

企画課 村山課長、杉山主査

星槎大学箱根キャンパス 安野キャンパス長

1 箱根町の概要について ※（ ）内は君津市

人 口：1万1千人（8万5千人）

面 積：92.86km²（318.81km²）

一般会計：89.98億円（294.1億円） 議 員 数：14名（24名）

箱根町は神奈川県の南西部に位置し、東京から約80キロメートルの距離にあり、北は南足柄市、東は小田原市、南は湯河原町、西は静岡県3市2町と接している。箱根町の地勢は、約40万年に及ぶ活動により、その地形は複雑をきわめ、多様な火山地形がみられる箱根火山によって形作られ、そのカルデラ内に河川・湖沼・草原を配した一大自然美を展開している。

2 調査事項について

【仙石原中学校の跡地活用について】

少子化に伴う小・中学校の統合により平成20年3月に廃校となった旧仙石原中学校跡地の活用について検討を重ね、平成22年度、23年度に民間事業者による専門的なノウハウと自由な発想により、地域との連携発展に貢献する事業提案の募集、事業者説明会、及び現地見学を開催したところ、10事業者が参加した。平成24年5月に事業提案の公募を行い、5事業者から申請を受け、選定の結果、星槎グループ（大学・スポーツクラブ・合宿など）に決定した。

星槎グループの提案は、通信制課程の大学本部機能の設置、地域総合スポーツクラブの運営及びスポーツ合宿運営事業の展開という、地域との連携・発展に貢献し、更なる地域活性化に寄与するもので、事業収支についても具体的な計画が提示され、高く評価された。町民の利用や災害時の対応も可能という。

平成24年8月に基本協定が締結され、25年8月から、総合型スポーツクラブ運営事業、合宿運営事業が開始されている。

貸付条件は校舎・体育館などは無償、グラウンドの賃料は有償で、年額977万円が町に入る。また、貸付期間は20年間としている。

主な事業は、下記の3つである。

(1) 星槎大学（通信制課程）箱根仙石原キャンパス運営事業

大学本部としての教育、研究活動のほか、地域貢献のための公開講座、セミナー等、教育、文化交流事業を展開することで、地域活性化を目指す。

(2) 星槎箱根仙石原総合型地域スポーツクラブ運営事業

箱根町初の総合型スポーツクラブを設立し、地域住民向けのプログラムや合宿など、スポーツ交流による地域活性化を目指す。

(3) スポーツ合宿運営事業

校舎の一部を宿泊施設にリノベーションし、比較的新しい顧客層等を中心に合宿事業を展開することで、観光産業の発展に貢献する。

3 所感

実際に校舎を見学させてもらったが、宿泊の為に教室に2段ベッドが入り、シャワー室やセミナー室、アスリートやアレルギーに対応した食堂、地域の方が無償で利用できる部屋、資料室等、工夫され整備されていた。特に、人工芝は2億円をかけており、多くのプロサッカー選手が練習に来るそうだ。町にとっても修繕や光熱費の負担が無いので、大変助かっているとのことであった。また、本施設は温泉宿と契約し、施設利用者が温泉を利用することができるなど、地域活性化の1つにもなっている。また、障害者の方への思い入れも強く、発達障害者団体や知的障害者団体の宿泊も積極的に受け入れている。

仙石原中学校の活用は、民間の力を巧みに使って成功した例だといえる。

星槎グループの本部は横浜にあるという事を聞いて、本市にも是非来て欲しいと思った。箱根町の議長から、統合を進める事が優先ですねとの助言をいただいたが、地域の方々の理解を得ながら、地域の活性化も含めた教育環境整備を進めて行きたい。

